

# スマート農機活用支援等による儲かる 施設野菜経営体育成

県北農林事務所経営・普及部門

スマート農機を活用したミニトマト生産により、販売額1億円を達成した参入企業のさらなる生産安定のため、夏季の高温障害による着果不良対策、生育調査データや環境測定データを活用した栽培環境改善、病害虫によるロス削減に取り組みました。

活動の結果、令和6年度販売金額は、令和5年度より約5%増加しました。

## 高温対策の提案による着果安定

高温対策として、①ドローンによるハウスの全天窓へ遮熱材の施工、②定植時期を9月中旬まで約1か月遅らせる、等の新たな取り組みを提案し、実践されました。

その結果、①約2℃のハウス内気温の昇温抑制効果が確認されたほか、②高温による異常茎の発生率が0.05%（令和5年同時期5%）と低下し、着果が安定しました。

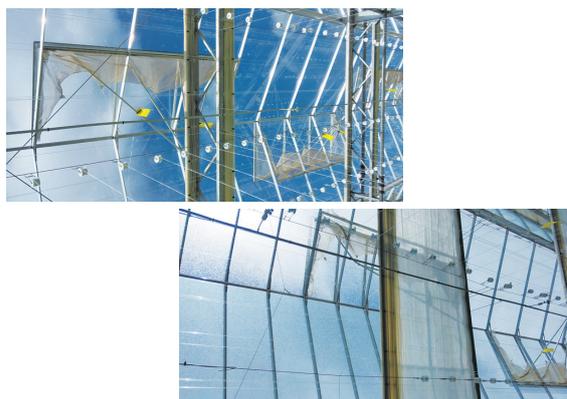


図1 遮熱材施工前の天窗（上）、施工後の天窗（下）



図2 順調に生育しているミニトマト

## データを活用した栽培環境改善技術の提案

週に1回の生育調査データ（茎径、着果状況等）及び環境測定データ（気温、湿度、日射量、炭酸ガス濃度等）に基づく栽培指導を行い、令和5年に作成した生育指標を目標に、養液ECや温度設定、日射量等を改善しました。

その結果、草勢が維持され、令和5年と比較し、収穫期間を1か月間延長することができ、収量向上に繋がりました。

## 病害虫によるロス削減支援

令和5年に作成した「病害虫防除手順書」の改訂を行い、各種防除対策を組み合わせ、病害虫防除指導を実施しました。

また、農場長に対し、農薬適正指導アドバイザー認定試験の受験を提案し、試験に合格しました。

その結果、令和7年1月時点の病害虫による撤去株率は、0.008%（令和6年同時期も同数）に抑えられました。



図3 病害虫手順書（抜粋）